

乾癬のバイオマーカー

三重大学医学部皮膚科 山中 恵一

KEY WORDS

- 尋常性乾癬
- バイオマーカー
- Type 3 サイトカイン
- アトピー性皮膚炎
- 角化細胞

はじめに

尋常性乾癬の成因として、Th17細胞あるいは自然リンパ球 (innate lymphoid cell : ILC) 3 が産生するインターロイキン (IL)-17 と、Th17 への分化に必須な IL-23p19 が鍵となっていることが判明し、治療標的となるサイトカインやシグナルも解明されつつあり、近年治療方法は劇的に進化した。また、尋常性乾癬では心血管疾患、脳血管疾患の合併が多く、平均より寿命が短いという報告も蓄積され、皮膚病変のみにとどまらず全身の炎症性疾患の1つであると認識されつつある¹⁾²⁾。

さて、バイオマーカーとは、ある疾患の有無や活動性を示す生理学的指標のことで、生物指標化合物ともいう。バイオマーカーとして使用されるものは、組織や血液、尿などの体液に含まれるタンパク質や遺伝子などの生体物質のデータであり、疾患特異的に発現する項目が望ましいが、実際には疾患

活動性の変化や治療に対する反応に相関し、変動することが多い。よって、バイオマーカーの値を測定することで病気の進行度や治療効果を検討できる。

アトピー性皮膚炎においては、バイオマーカーとして種々の実用化されている項目があるが、乾癬の分野ではいまだ研究段階である項目が多い³⁾。病変部皮膚での炎症性サイトカインの profile や個々のサイトカイン濃度、また発症誘因となる患者末梢血単核球から産生される炎症性サイトカインの種類や濃度が、厳密な薬剤選択における真のバイオマーカーであろう。ただし、個々のサイトカイン濃度の測定は実臨床では困難であるため、現実的には後述する項目がバイオマーカーとして捉えられている。

乾癬では、皮膚に浸潤する炎症性細胞と皮膚の相互作用にて局面が形成されている。Type 3 疾患として理解されて久しいが、局面のなかの炎症細胞は Type 3 細胞ばかりではなく、Type 1

Biomarkers for psoriasis.
Keiichi Yamana (教授)

SAMPLE